

知床半島周辺海域における ミナミオナガミズナギドリ *Puffinus bulleri* の記録

倉沢 康大¹・佐藤 晴子²

1. 041-8611 北海道函館市港町 3-1-1, 北海道大学水産学部 2. 086-1831 北海道目梨郡羅臼町富士見町 57, 知床・根室海峡シャチ連絡会

Observation Records of Buller's Shearwater *Puffinus bulleri* off the Shiretoko Peninsula, Japan

KURASAWA Kouta¹ & SATO Hal²

1. Graduate School of Fisheries Science, Hokkaido University, 3-1-1 Minato-cho, Hakodate, Hokkaido 041-8611 Japan. k.kurasawa@fishb.hokudai.ac.jp 2. Shiretoko-Nemuro Strait Orca Group, 57 Fujimi-cho, Rausu, Hokkaido 086-1831, Japan

はじめに

ミナミオナガミズナギドリ *Puffinus bulleri* は、日本近海に多く生息するオオミズナギドリ *Calonectris leucomelas* に形態的に類似するがやや小型のミズナギドリ類である。同属のハシボソミズナギドリ *P. tenuirostris* などと同様に、北半球の冬に南半球で繁殖し北太平洋で夏を過ごす (Harrison 1987)。北太平洋への飛来数は東側に多く、北アメリカ西海岸では普通に生息する (小城 1990)。

日本では迷鳥とされていたが (日本鳥類目録編集委員会 2000)、近年、夏季から秋季にかけて北日本太平洋側に定期的に飛来することが分かった (倉沢・清水 2008)。しかし、北日本太平洋側以外の海域における本種の飛来状況は明らかになっておらず、オホーツク海や根室海峡では本種の分布は確認されていない (ネチャエフ・藤巻 1994; Harrison 1987; Onley & Scofield 2007; 真木・大西 2000)。著者らは 2008 年の 8 月から 10 月にかけて知床半島近海において本種を計 12 回確認し、これが本海域における本種の初記録と考えられるので報告する。

観察記録

2008 年 1 月から 10 月の期間中に、本海域におけ

る著者らによる観察努力量は計 51,208 分であった (表 1)。なお、11 月から 1 月中旬にかけては観察努力がなされていない。その中で本種が確認されたのは以下に挙げる 12 例 (表 2) で、いずれも 8 月から 10 月に記録が集中していた。観察は羅臼港発着のホエールウォッチング・クルーズ船である (株) まるみ運行のアルラン III 号と (有) 知床ネイチャークルーズのエバグリーン号、および北海道大学水産学部所属練習船うしお丸で行った。発見位置を図 1 に示す。記録 3 は倉沢による観察で、それ以外は佐藤による観察である。表 2 に観察日時、個体数、発見位置、写真の有無を示す。いずれも単独または数羽での観察であり、大きな群れでは出現しなかった。形態による個体識別は困難であったため、以下の記録がそれぞれ同一群ないし同一個体であるかは不明であった。

1. 2008 年 8 月 25 日

エバグリーン号よりイシイルカ *Phocoenoides dalli* の群れを観察中に、長谷川正人船長が飛行中の 1 羽を確認し、石井輝章氏が撮影した。

2. 2008 年 8 月 28 日

エバグリーン号より飛行中の 1 羽を確認した。

表1. 2008年知床半島周辺海域における著者らによる観察努力量 (分). **Table 1.** Total minutes of observation effort around Shiretoko Peninsula in 2008.

Jan.	Feb.	Mar.	Apr.	May	June	July	Aug.	Sept.	Oct.	Nov.	Dec.	Total
170	3,820	4,185	4,355	4,385	8,275	8,425	8,160	6,413	3,020	0	0	51,208

表2. 2008年知床半島周辺海域におけるミナミオナガミズナギドリの観察記録. **Table 2.** Observation records of Buller's Shearwater around Shiretoko Peninsula in 2008.

図1中の番号 Location number on Fig. 1	観察年月日 Date (Year- Month-Day)	時間 Time	個体数 Group size	緯度 Latitude	経度 Longitude	水深 Depth (m)	水温 Water Temp. (°C)	写真の有無 Photograph
1	2008-08-25	-	1	44°08'01" N	145°27'23" E	-	17.2	○
2	2008-08-28	-	1	44°02'57" N	145°19'00" E	-	16.8	○
3	2008-09-05	07:07	1	44°24'24" N	145°15'53" E	1,247	-	○
4	2008-09-13	-	2	44°04'50" N	145°25'52" E	-	18.2	○ (Fig. 2)
5	2008-09-13	-	1	44°04'36" N	145°20'47" E	-	20.2	○
6	2008-09-13	-	3	44°04'33" N	145°23'20" E	-	-	○
7	2008-09-14	-	2	44°02'45" N	145°25'20" E	-	18.7	○
8	2008-09-26	-	1	44°04'30" N	145°24'15" E	-	17.4	○
9	2008-10-07	-	1	44°05'50" N	145°25'40" E	-	-	○
10	2008-10-13	-	4	44°03'07" N	145°20'21" E	-	15.6	○
11	2008-10-19	-	1	44°04'44" N	145°25'49" E	-	15.7	-
12	2008-10-30	10:30	1	44°02'02" N	145°19'59" E	-	13.7	-

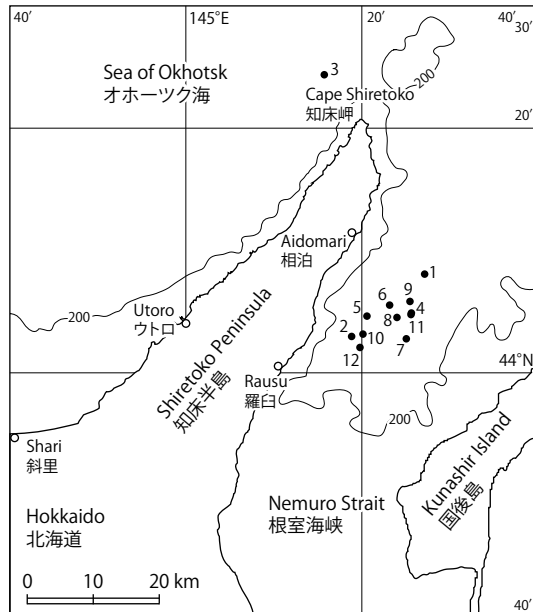


図1. 知床半島周辺海域におけるミナミオナガミズナギドリの確認地点. 図中の数字は表2と対応する. **Fig. 1.** The sighting positions of Buller's Shearwater around Shiretoko Peninsula.

3. 2008年9月5日

うしお丸より飛翔中の1羽を確認した. 同時に出現した他種はなく単独で飛翔し, ゆったりとした羽ばたきを交えながらまっすぐ北東方向へ飛去した.

4. 2008年9月13日

エバーグリーン号よりイシイルカの群れを観察中に, 石井輝章氏が着水している2羽を確認し, その後飛翔しているところを撮影した(図2).

5. 2008年9月13日

エバーグリーン号よりアカアシミズナギドリ *P. carneipes* とトウゾクカモメ *Stercorarius pomarinus* の混在している群れ付近を飛行している1羽を確認した.

6. 2008年9月13日

エバーグリーン号よりアカアシミズナギドリの群れ付近を飛行している3羽を確認した.



図2. 2008年9月13日に確認されたミナミオナガミズナギドリ. 石井輝章撮影. Fig. 2. An individual sighted on September 13, 2008. Photograph by ISHII Teruaki.

7. 2008年9月14日

エバーグリーン号よりアカアシミズナギドリの群れに混じって着水している2羽を確認した。

8. 2008年9月26日

エバーグリーン号より、アカアシミズナギドリの群れに混じって飛翔している1羽を確認した。

9. 2008年10月7日

アルランIII号よりハイイロミズナギドリ *P. griseus* とフルマカモメ *Fulmarus glacialis* の混在している群れ付近から飛び立つ1羽を確認した。

10. 2008年10月13日

エバーグリーン号より飛行している4羽を確認した。

11. 2008年10月19日

エバーグリーン号よりフルマカモメの群れが着水している海面を飛翔する1羽を確認した。

12. 2008年10月30日

エバーグリーン号より飛翔中の1羽を確認した。同時に確認された他種はなかった。

考察

1月から10月にかけて本海域付近において観察努力がなされているにも関わらず(表1), 観察記録が8月から10月に集中している。これは、本種の北日本太平洋側沿岸域への飛来時期が主に夏季から秋季であることと一致している(倉沢・清水2008)。よって本観察記録は、北日本太平洋側に飛来した本種の一部が根室海峡やオホーツク海南部まで飛来している可能性を示唆する。今後も観察

努力を続けることで、本種が根室海峡やオホーツク海まで定期的に飛来しているかどうかという点に注目する必要がある。

また、本種のような数少ない海鳥の観察記録が増加している要因として、観光船やホエールウォッチング船などを利用した観察努力量の増加が考えられる。特に本海域ではこれらの船からの海洋動物の観察が盛んに行われており、この点に関して佐藤ら (2008) によって、本海域におけるホエールウォッチング船の増加がアホウドリ *Diomedea albatrus* の観察記録の増加要因として指摘されている。実際に本観察記録12例のうち、ホエールウォッチング船からの観察記録は11例で多数を占めている。

謝辞

佐藤による観察に際して、羅臼町の(有)知床ネイチャークルーズの長谷川正人船長と(株)まるみの高橋幸雄船長には撮影の機会をもちましていただいた。自然写真家の石井輝章氏は画像を快く提供していただいた。倉沢による観察に際しては、北海道大学練習船うしお丸の山口秀一船長ならびに乗組員の皆様にはご協力をいただいた。日本野鳥の会オホーツク支部長の川崎氏には貴重な文献を提供していただいた。以上の方々に、記してお

礼を申し上げます。

引用文献

- Harrison P. 1987. Seabirds of the world: a photographic guide. 210 pp. Christopher Helm, London.
- 倉沢康大・清水博之. 2008. 日本におけるミナミオナガミズナギドリ *Puffinus bulleri* の記録. *Strix* 26: 227-231.
- 真木広造・大西敏一. 2000. 日本の野鳥590. 654 pp. 平凡社, 東京.
- ネチャエフ V. A. ・藤巻裕蔵. 1994. 南千島鳥類目録: 国後, 択捉, 色丹, 歯舞. 123 pp. 北海道大学図書刊行会, 札幌.
- 日本鳥類目録編集委員会 (編). 2000. 日本鳥類目録 (改訂第6版). xii + 345 pp. 日本鳥学会, 帯広.
- 小城春雄. 1990. 北太平洋における海鳥観察指針. 154 pp. 水産庁研究部, 東京.
- Onley D. & Scofield P. 2007. Albatrosses, Petrels, and Shearwaters of the World. 195 pp. Princeton University Press, New Jersey.
- 佐藤晴子・田澤道広・長谷川正人. 2008. 知床・根室海峡におけるアホウドリ *Diomedea albatrus* の確実な初の連続目視記録. 知床博物館研究報告 29: 11-15.